

諸人の梅花の歌に和へ奉る一首

八六四番

後れ居て 長恋せずは み園生の 梅の花にも
ならましものを

松浦の仙媛の歌に和ふる一首

八六五番

君を待つ 松浦の浦の 娘子らは 常世の国の
海人娘子かも

君を思ふこと未だ尽きず、重ねて題す歌二首

八六六番

はろはろに 思ほゆるかも 白雲の 千重に隔て
る 筑紫の国は

八六七番

君が行き 日長くなりぬ 奈良路なる 山斎の木
立も 神さびにけり